

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年11月14日
【四半期会計期間】	第75期第2四半期（自 2022年7月1日 至 2022年9月30日）
【会社名】	トーイン株式会社
【英訳名】	TOIN CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 高橋 太
【本店の所在の場所】	千葉県柏市新十余二16番地1
【電話番号】	04(7131)2111（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役専務執行役員経営企画統括 坂戸 正朗
【最寄りの連絡場所】	千葉県柏市新十余二16番地1
【電話番号】	04(7131)2111（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役専務執行役員経営企画統括 坂戸 正朗
【縦覧に供する場所】	トーイン株式会社 東京本社 （東京都江東区亀戸一丁目4番2号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第74期 第2四半期 連結累計期間	第75期 第2四半期 連結累計期間	第74期
会計期間	自2021年4月1日 至2021年9月30日	自2022年4月1日 至2022年9月30日	自2021年4月1日 至2022年3月31日
売上高 (千円)	5,713,740	6,401,174	11,518,726
経常利益又は経常損失 () (千円)	59,570	155,432	57,574
親会社株主に帰属する四半期純利益 又は親会社株主に帰属する当期純損 失 () (千円)	34,417	86,183	62,935
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	156,287	221,392	13,200
純資産額 (千円)	9,404,345	9,393,334	9,209,691
総資産額 (千円)	18,182,839	18,364,528	17,900,623
1株当たり四半期純利益又は1株当 たり当期純損失 () (円)	6.84	17.12	12.50
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	51.5	50.9	51.2
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	383,269	648,081	852,938
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	409,384	324,487	590,614
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	28,361	167,621	222,486
現金及び現金同等物の四半期末(期 末)残高 (千円)	2,269,215	2,513,414	2,318,433

回次	第74期 第2四半期 連結会計期間	第75期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自2021年7月1日 至2021年9月30日	自2022年7月1日 至2022年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	10.32	16.90

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 第74期第2四半期連結累計期間及び第75期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。第74期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

財政状態

当第2四半期連結会計期間末における資産は18,364百万円となり、前連結会計年度末に比べ463百万円増加いたしました。これは主に、有形固定資産が124百万円、投資その他の資産のその他が保険積立金の減少などにより118百万円減少いたしました。現金及び預金が197百万円、受取手形及び売掛金並びに電子記録債権が448百万円、棚卸資産が147百万円増加したことなどによるものであります。

負債は8,971百万円となり、前連結会計年度末に比べ280百万円増加いたしました。これは主に、借入金129百万円、流動負債のその他が設備関係電子記録債務の減少などにより190百万円減少いたしました。支払手形及び買掛金並びに電子記録債務が534百万円増加したことなどによるものであります。

純資産は9,393百万円となり、前連結会計年度末に比べ183百万円増加いたしました。これは主に、為替換算調整勘定が186百万円増加したことなどによるものであります。

経営成績

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、第1四半期に一時減少傾向となった新型コロナウイルス感染者数が第2四半期に再び増加するなど、本格的な収束は依然として見通せていないこと、入国制限が継続する中でインバウンド需要の本格的な回復も見込めないこと、また、資源・エネルギー価格の高値圏推移や円安の一層の進行等により、景気の不透明感がさらに増す動きとなりました。

包装資材業界においては、新型コロナウイルス感染症の収束やインバウンド需要の本格的な回復が見込めない中で、想定以上のエネルギー・諸資材価格の高騰や、相次ぐ物価上昇により消費者の節約志向が高まるなど、引き続き厳しい事業環境にて推移しました。

当社グループは、このような状況のもと、お客様に当社製品を安定的に供給すべく、新型コロナウイルス感染防止対策に継続的に取り組むとともに、業容の拡大を目指し、新規分野の開拓、差別化された商品・技術の開発等に注力したほか、エネルギー、諸資材価格や物流コストの上昇を吸収すべく、諸施策を実施してまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高は6,401百万円（前年同期比12.0%増）、営業利益は92百万円（前年同期比240.9%増）、経常利益は155百万円（前年同期比160.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は86百万円（前年同期比150.4%増）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

（包装資材事業）

売上高に関しては、引き続き当社加飾技術や環境対応資材を中心に当社製品の優位性のアピールを軸とする企画提案型の営業活動を継続的に実施するとともに、エネルギー、諸資材価格や物流コストの上昇を吸収すべく、採算性を重視した受注活動に注力してまいりました。

その結果、国内の売上高は、食品、化粧品、日用品分野がそれぞれ底堅く推移し、増収となり、海外においては、ベトナム現地法人（TOIN VIETNAM CO., LTD.）における新型コロナウイルス感染症流行による落ち込みから引き続き持ち直しつつあり、売上高は5,711百万円（前年同期比11.5%増）となりました。

利益面については、エネルギーや諸資材の価格上昇、物流コストの上昇に対して、工場運営の効率化等を推進した結果、ベトナム現地法人（TOIN VIETNAM CO., LTD.）における資材高を主因とした減益をカバーし、前年同期比で増益となりました。

（精密塗工事業）

新たな商品開発での事業範囲の拡大を推進すること等で新規分野・新規客先の需要先の開拓に注力するとともに、生産面では、高品質な商品提供ときめ細かなサポートにより売上の拡大・安定と収益性の向上による事業の安定化を図っており、売上高は430百万円（前年同期比7.1%増）となりました。

利益面については、フレキシブルな生産体制への取り組みや製造コスト管理の徹底に努め前年同期比で増益となりました。

(その他事業)

許認可を生かした化粧品分野の新規受託などが伸びたことにより、売上高は259百万円(前年同期比35.5%増)となりました。

利益面については、受注増に対して引き続き柔軟性のある生産体制の編成を行うこと等で採算性の確保に努め、前年同期比で増益となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ194百万円増加し、2,513百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、648百万円の収入(前年同期比69.1%増)となりました。これは主に、売上債権の増加451百万円等の資金減少があったものの、減価償却費418百万円、仕入債務の増加526百万円等の資金増加があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、324百万円の支出(前年同期比20.7%減)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出302百万円等があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、167百万円の支出(前年同期は28百万円の収入)となりました。これは主に、借入金の純減額129百万円等があったことによるものであります。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、38百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	21,850,000
計	21,850,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2022年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2022年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	6,377,500	6,377,500	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	6,377,500	6,377,500		

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2022年7月1日～ 2022年9月30日		6,377,500		2,244,500		2,901,800

(5) 【大株主の状況】

2022年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
山科 統	東京都世田谷区	1,010	20.07
トーイン共栄会	東京都江東区亀戸1丁目4番2号トーイン ㈱内	535	10.63
㈱みずほ銀行 (常任代理人 ㈱日本カス トディ銀行)	東京都千代田区大手町1丁目5番5号 (東京都中央区晴海1-8-12)	251	5.00
東洋インキSCホールディング ス㈱	東京都中央区京橋2丁目2番1号	197	3.91
㈱バンダイナムコホールディ ングス	東京都港区芝5丁目37番8号	182	3.63
三井住友信託銀行㈱ (常任代理人 ㈱日本カス トディ銀行)	東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 (東京都中央区晴海1-8-12)	170	3.38
トーイン従業員持株会	東京都江東区亀戸1丁目4番2号トーイン ㈱内	158	3.15
山科 実桜	東京都世田谷区	127	2.52
山科 進太郎	東京都世田谷区	127	2.52
㈱小森コーポレーション	東京都墨田区吾妻橋3丁目11番1号	109	2.18
計	-	2,868	57.00

(6) 【議決権の状況】
 【発行済株式】

2022年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,344,200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,032,100	50,321	-
単元未満株式	普通株式 1,200	-	-
発行済株式総数	6,377,500	-	-
総株主の議決権	-	50,321	-

(注) 1 「完全議決権株式(自己株式等)」欄は、全て当社保有の自己株式であります。
 2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式53株が含まれております。

【自己株式等】

2022年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
トーイン株式会社	千葉県柏市新十余二 16番地1	1,344,200	-	1,344,200	21.08
計	-	1,344,200	-	1,344,200	21.08

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 退任役員

役職名	氏名	退任年月日
代表取締役会長兼CEO	春 公明	2022年7月20日

(2) 役職の異動

新役職名	旧役職名	氏名	異動年月日
代表取締役社長	代表取締役社長兼COO	高橋 太	2022年8月26日

(3) 異動後の役員の男女別人数及び女性の比率

男性14名 女性 - 名(役員のうち女性の比率 - %)

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、興亜監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,328,032	2,525,975
受取手形及び売掛金	2,660,191	2,972,357
電子記録債権	1,307,048	1,443,855
商品及び製品	448,726	488,935
仕掛品	340,515	410,118
原材料及び貯蔵品	277,117	314,348
その他	222,156	212,483
貸倒引当金	1,000	1,000
流動資産合計	7,582,788	8,367,075
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,124,495	2,128,125
機械装置及び運搬具(純額)	2,605,387	2,395,544
土地	2,502,499	2,502,499
その他(純額)	117,865	199,268
有形固定資産合計	7,350,248	7,225,437
無形固定資産		
投資その他の資産	18,338	16,998
投資有価証券	2,401,173	2,325,467
その他	551,125	432,666
貸倒引当金	3,050	3,116
投資その他の資産合計	2,949,248	2,755,017
固定資産合計	10,317,835	9,997,453
資産合計	17,900,623	18,364,528
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,152,593	1,307,238
電子記録債務	1,638,153	2,018,076
短期借入金	350,000	350,000
1年内返済予定の長期借入金	1,013,400	932,500
未払法人税等	23,736	93,232
賞与引当金	116,000	118,073
その他	799,892	609,614
流動負債合計	5,093,775	5,428,735
固定負債		
長期借入金	2,536,300	2,488,000
退職給付に係る負債	266,125	269,331
役員退職慰労引当金	255,630	269,264
その他	539,100	515,863
固定負債合計	3,597,156	3,542,459
負債合計	8,690,932	8,971,194

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,244,500	2,244,500
資本剰余金	2,901,824	2,901,824
利益剰余金	3,605,872	3,654,306
自己株式	711,990	711,990
株主資本合計	8,040,207	8,088,641
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,092,575	1,028,057
為替換算調整勘定	136,058	322,970
退職給付に係る調整累計額	100,157	91,535
その他の包括利益累計額合計	1,128,475	1,259,492
非支配株主持分	41,009	45,200
純資産合計	9,209,691	9,393,334
負債純資産合計	17,900,623	18,364,528

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	5,713,740	6,401,174
売上原価	4,754,606	5,331,514
売上総利益	959,133	1,069,660
販売費及び一般管理費	931,956	977,020
営業利益	27,177	92,639
営業外収益		
受取利息	1,907	1,272
受取配当金	23,179	35,735
持分法による投資利益	4,129	5,649
為替差益	22,592	36,888
その他	5,806	5,793
営業外収益合計	57,615	85,340
営業外費用		
支払利息	25,028	22,496
その他	192	50
営業外費用合計	25,221	22,547
経常利益	59,570	155,432
特別利益		
固定資産売却益	323	579
投資有価証券売却益	150	-
受取保険金	-	27,980
特別利益合計	473	28,559
特別損失		
固定資産除却損	481	544
役員退職慰労金	1,686	-
弔慰金	-	20,000
特別損失合計	2,167	20,544
税金等調整前四半期純利益	57,877	163,448
法人税、住民税及び事業税	26,601	71,653
法人税等調整額	2,386	6,475
法人税等合計	24,214	78,128
四半期純利益	33,662	85,319
非支配株主に帰属する四半期純損失()	754	864
親会社株主に帰属する四半期純利益	34,417	86,183

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	33,662	85,319
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	48,910	64,517
繰延ヘッジ損益	61	-
為替換算調整勘定	62,523	170,430
退職給付に係る調整額	11,130	8,622
持分法適用会社に対する持分相当額	-	21,537
その他の包括利益合計	122,624	136,072
四半期包括利益	156,287	221,392
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	157,041	217,200
非支配株主に係る四半期包括利益	754	4,191

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	57,877	163,448
減価償却費	423,480	418,991
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	12,289	13,633
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	12,976	3,205
受取利息及び受取配当金	25,086	37,008
支払利息	25,028	22,496
売上債権の増減額(は増加)	215,004	451,571
棚卸資産の増減額(は増加)	5,592	125,134
仕入債務の増減額(は減少)	150,144	526,381
その他	28,650	82,987
小計	438,810	451,454
利息及び配当金の受取額	25,079	53,644
利息の支払額	25,435	21,814
保険金の受取額	-	160,153
法人税等の支払額	59,078	11,022
法人税等の還付額	-	30,423
その他	3,893	14,756
営業活動によるキャッシュ・フロー	383,269	648,081
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	366,516	302,190
投資有価証券の取得による支出	5,897	6,361
その他	36,970	15,935
投資活動によるキャッシュ・フロー	409,384	324,487
財務活動によるキャッシュ・フロー		
ファイナンス・リース債務の返済による支出	1,404	546
長期借入れによる収入	600,000	400,000
長期借入金の返済による支出	545,000	529,200
配当金の支払額	25,233	37,875
財務活動によるキャッシュ・フロー	28,361	167,621
現金及び現金同等物に係る換算差額	12,929	39,007
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	15,175	194,980
現金及び現金同等物の期首残高	2,254,039	2,318,433
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,269,215	2,513,414

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
荷造運送費	190,814千円	213,705千円
給与賞与	317,508	312,586
賞与引当金繰入額	32,464	32,318
役員退職慰労引当金繰入額	14,254	13,633
退職給付費用	12,915	12,169

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
現金及び預金勘定	2,278,771千円	2,525,975千円
預入期間が3か月を超える定期預金	9,555	12,561
現金及び現金同等物	2,269,215	2,513,414

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月29日 定時株主総会	普通株式	25,166	5.0	2021年3月31日	2021年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年10月29日 取締役会	普通株式	25,166	5.0	2021年9月30日	2021年11月30日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	37,749	7.5	2022年3月31日	2022年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年10月31日 取締役会	普通株式	25,166	5.0	2022年9月30日	2022年11月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	包装資材	精密塗工	計				
売上高							
外部顧客への売上高	5,120,389	401,677	5,522,067	191,672	5,713,740	-	5,713,740
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	5,120,389	401,677	5,522,067	191,672	5,713,740	-	5,713,740
セグメント利益	238,282	129,236	367,518	26,964	394,483	367,305	27,177

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食品・化粧品・医薬部外品等の加工・セットを受託するほか、販促品等の商品を販売しております。

2. セグメント利益の調整額 367,305千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	包装資材	精密塗工	計				
売上高							
外部顧客への売上高	5,711,185	430,223	6,141,409	259,765	6,401,174	-	6,401,174
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	5,711,185	430,223	6,141,409	259,765	6,401,174	-	6,401,174
セグメント利益	305,192	131,450	436,642	28,845	465,488	372,848	92,639

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食品・化粧品・医薬部外品等の加工・セットを受託するほか、販促品等の商品を販売しております。

2. セグメント利益の調整額 372,848千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	包装資材	精密塗工	計		
紙器・樹脂パッケージ	4,310,181	-	4,310,181	-	4,310,181
塗工	-	401,677	401,677	-	401,677
その他	810,208	-	810,208	191,672	1,001,880
顧客との契約から生じる収益	5,120,389	401,677	5,522,067	191,672	5,713,740
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	5,120,389	401,677	5,522,067	191,672	5,713,740

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食品・化粧品・医薬部外品等の加工・セットを受託するほか、販促品等の商品を販売しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	包装資材	精密塗工	計		
紙器・樹脂パッケージ	4,737,547	-	4,737,547	-	4,737,547
塗工	-	430,223	430,223	-	430,223
その他	973,637	-	973,637	259,765	1,233,402
顧客との契約から生じる収益	5,711,185	430,223	6,141,409	259,765	6,401,174
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	5,711,185	430,223	6,141,409	259,765	6,401,174

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食品・化粧品・医薬部外品等の加工・セットを受託するほか、販促品等の商品を販売しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
1株当たり四半期純利益	6円84銭	17円12銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	34,417	86,183
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	34,417	86,183
普通株式の期中平均株式数(株)	5,033,247	5,033,247

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

2022年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....25,166千円

(ロ) 1株当たりの金額.....5円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2022年11月29日

(注) 2022年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年11月11日

トーイン株式会社
取締役会 御中

興亜監査法人
東京都千代田区

指定社員
業務執行社員 公認会計士 柿原 佳孝

指定社員
業務執行社員 公認会計士 倉谷 祐治

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているトーイン株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、トーイン株式会社及び連結子会社の2022年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー 手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。